

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2773001504
法人名	社会福祉法人 ともしび福祉会
事業所名	飛鳥ともしび苑 Aユニット
所在地	大阪市東淀川区東中島3丁目16番20号
自己評価作成日	平成 24年 8月 31日
評価結果市町村受理日	平成 24年 12月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvCd=2773001504-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 24年 9月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に利用者の方の「思い」に寄り添うケアを目指し、その人らしい生活が継続出来るよう支援している。また、利用者の生活のパートナーであるスタッフの育成には、法人全体で取り組み、リスクマネジメントやメンタルヘルス活動の充実が図られている。平成21年に導入した「くもん学習療法」は、現在では利用者の方の「楽しみの時間」にもなっており、認知機能やコミュニケーション機能維持・改善にも繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で実績のある社会福祉法人が運営するグループホームで、同じ建物内で生活支援ハウスを運営し、真向かいの老人福祉センターで介護保険サービス事業を運営し連携が図られています。6月に着任した新管理者は地域住民との交流をより深め、利用者家族とのコミュニケーションをより一層密にするべく努力をしています。また管理者は職員とよく話し合い、職員からの要望や提案などにも積極的に取り組み、職員が働きやすい環境作りに努力しています。明るくチームワークの良い職員は利用者一人ひとりの思いや希望に沿うよう思いやりのあるケアを実施し、外出に力を入れています。利用者は恵まれた立地と建物、優しい職員に囲まれ、笑顔と会話のあるゆったりとした生活をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者の素朴な「願い」「思い」をしつかりと掴み、その思いに応えながら共に歩いて行くことを運営理念としており、地域の中で福祉サービスの拠り所として、「その人らしい暮らし」を支えていく事を、常に念頭におきながら、日々取り組んでいる	『「願い」「思い」「その人らしい暮らし」を大切に、「笑顔と喜び」を分かち合い、支えあいながら共に歩む』をホームの新しい理念として定め、明示しています。定例の合同職員会議や毎日の業務を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、同法人運営のデイサービス利用者である地域住民の方と一緒に参加する、“夏祭り”の合同行事や、地域内の保育園主催の敬老会参加、園児が来苑しての交流会、地元高校から、福祉授業の一環としての実習生受入など、日常的に地域とのふれあいや交流に努めている。	同法人が運営するデイサービスと合同で夏祭りを開催し、地域住民も参加しています。その他、老人福祉センターで開催されるカラオケクラブに参加したり、近隣の保育園が開催する敬老会に招待され、園児と交流を図りながら楽しんでいきます。また、利用者はホームに來訪する、毎月の音楽療法や3か月毎のドッグセラピーを楽しみにしています。近隣小学校や中学校の体験学習や、福祉専門学校の実習を受け入れています。	今後更に地域との交流を深め、利用者が地域のボランティアと交流ができるように、地域の老人会や婦人会等に働きかけてはいかがでしょうか。また、ホーム主催で地域住民に向けた認知症の勉強会を実施してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症の専門的ケアの実践から学んだ経験を、併設の通所介護・居宅介護支援・訪問介護・地域包括支援センターの各事業所職員との合同研修会として「事例検討会」を定期実施。グループホームから発信した認知症ケアのノウハウを地域内に波及していくよう支援に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域内民生委員、ご利用者の家族、地域内ネットワーク委員、地域包括支援センター、同業の他事業所の社会福祉士・ケアマネジャーの方々の参加にて開催。外部の方からの貴重な意見等を運営に活かすよう努めている。	運営推進会議は地域のネットワーク委員会会長、地域社会福祉協議会会長、民生委員、ネットワーク委員、地域包括支援センター職員、家族の参加のもとで、おおむね2か月毎に開催しています。会議では新任管理者の新しい取り組み方針や事業所の活動状況、利用者の状況、行事予定と実績、医療連携スタート、職員の研修などについて報告し、ホーム運営の課題や、より深い地域との交流の仕方などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域福祉推進の要であり、保険者である市町村とは常に情報交換しながら、協力関係の構築に努めている。	管理者は、区の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。区の地域密着型事業分科会での事例発表やグループホーム事業者連絡会に参加し、交流活動をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>介護保険指定基準における禁止対象行為を正しく理解し、原則、拘束のない事業所を常に目指している。玄関の施錠に関しては、ご利用者の平均的注意力で開錠ボタンは十分確認可能で、閉塞感、抑圧感がなく、自由に外に出られる雰囲気作りに配慮。他方では常に外出ニーズのキャッチに注力、適宜、散歩や買い物等の対応にて、外出ニーズ充足に努めている。</p>	<p>身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関の鍵については、フロアドアを手動に切り替え、玄関扉は内鍵方式でひとつのボタン操作で開錠できるようにしています。玄関扉外側の菜園のあるテラスでの外気浴や、外出を希望する利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内の虐待に関しては、職員のストレスなどに起因するケースが一般的な見解。風通しが良く、ストレスの少ない職場の環境作りに配慮しながら、虐待に対する潜在的危険性の根絶を念頭に取組み、現在、具現化を果たしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、日常生活自立支援事業（あんしんさぼーと）と成年後見制度の利用者も既におられ、今後とも当該制度の利用並びに支援を行っていきたい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、契約書、重要事項説明書並びに解約時における内容も含めて、時間をかけて丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族は、一部（公的制度利用者）のご家族を除き、毎月、来苑されるので、その機会を活用し、現在のサービス提供の質や、要望事項等、忌憚のない意見交換に努め、地域の運営推進会議などを通じ、反映させている。	家族との面会時には、利用者の生活状況や連絡事項を伝え、健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。また、年に2回「飛鳥ともしび苑だより」を発行し、行事を中心に、その時の利用者の様子を写真とともに家族へ報告しています。	今後より一層家族との相互の理解を深め良好な関係を築くため、家族との会話の機会を増やす検討をされてはいかがでしょうか。たとえば、毎月の書類の発送時に、担当職員が利用者の生活状況や健康状態、家族への連絡事項などを書き添え、近況写真も添付し、送付してはいかがでしょうか。また、運営推進会議に多くの家族が参加できるようにしたり、介護計画見直し時のサービス担当者会議に家族の参加を要請したりする等、家族が参加する行事を増やすこと等を検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からのアンケート調査を含め毎月 の合同職員会議の開催を通じ、常に 現場職員の“声”に真摯に向き合う機 会を設けている。改善事項や各種提案 課題に対する要望等に自由闊達に意 見交換を行い、より質の高いサービス 提供や、円滑な事業運営に活かしてい くよう努めている。	職員は、定例の合同職員会議や日常 の業務を通じて、意見や提案をする機 会があります。管理者は着任後職員と よく話し合い、職員からの要望や提案 などにも積極的に取り組もうと努力し、 休憩の時間や場所の確保などの職員 が働きやすい環境作りにも努力してい ます。定期的な職員との個人面談制度 もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や 実績、勤務状況を把握し、給与水準、労 働時間、やりがいなど、各自が向上心 を持って働けるよう職場環境・条件の整備 に努めている	円滑な事業運営の大きな原動力であ る職員のモチベーション維持向上は、 代表者の最も重要な職責である。日本 経営（コンサルティング）による、人事 考課制度の公平な運用をベースに、職 員一人ひとりが、“やりがい”を持って、 いきいき働ける職場になるよう努めて いる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりの ケアの実際と力量を把握し、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きな がらトレーニングしていくことを進めてい る	法人本部として日本経営から講師を招 き、定期研修会を開催し、役職者研 修、一般研修を実施、OJTや外部研修 と共に、介護サービスの質向上への取 組を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東淀川区内のグループホームで、当苑含め7事業者で、定期的開催されている連絡会に毎回参加し、サービス向上への課題やノウハウなどの情報交換を積極的に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談から契約に至るまでには、体験入所のステップを踏んでいただくケースが多く、その期間内に相互に信頼関係が築けるかが課題。住み慣れた家を離れる事への不安、知らない人達との共同生活への不安等、沢山の不安を抱えながら入所されるご利用者を、温かく、きめ細やかな配慮で迎え入れ、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人が、環境の変化に戸惑われる事が予想される中、ご本人やご家族が抱かれる思いや不安に対し、時間を惜しむことなく耳を傾け、ご家族が納得されるまで話し合い、相互の信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談段階でのご本人、ご家族のニーズを的確に掴み、事業所外の多様なサービス利用の調整を行い、最も必要とされるサービスを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「疑似家族」の関係を常に念頭に置き、“家族”としての喜怒哀楽を共有し、サービスを受ける側と提供する側の垣根を取り除くと共に、互いを尊敬し、真に支え合える関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所への入所に至るまでに、ご家族の中には、認知症のご本人をご自宅で介護され、大変なご苦労を経験されたご家族も沢山おられ、ケアの大変さを互いに共感できる想いの中で、共に支え合える“家族”として、信頼関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が、これまで培ってこられた人間関係や地域社会との関わりによる“古き良き思い出”を大切にしながら、可能な限り“思い出との遭遇”の実現に向けた支援に努めている。	利用者がなじみの神社への初詣や、美容院へいく支援を行っています。職員と一緒に他県へお墓参りに出かけた事例もあります。利用者が大切に思う、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「疑似家族」の一員として同じ屋根の下で暮らしているご利用者が、孤立しないようにコミュニケーションがとれる接点を見出し、その関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後に於いても、必要とされるケア情報に関して、全面的に協力し、新しい環境への対応が円滑に運べるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者本人の口から、聞き取ることには容易ではないケースも多いが、断片的に聞き入れた情報と、ご家族からの情報や生活歴とを重ね合わせ、「思い」や、「意向」の把握に努めている。	利用者の思いや意向の聞き取りに努め、支援経過記録に書きとめています。しかし、職員間で情報を共有するための記録の整理や、把握については、工夫の余地がある状況です。	全職員が情報を共有するために、各職員が知っている利用者の現在の思いや意向を把握し、記録することが期待されます。例えばセンター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用して、研修を兼ねて全職員で作成に取り組まれてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、生活歴を辿ることは、「思い」や「願い」の実現と密接にリンクしており、ご家族からの情報と併せて、常に情報の上書きが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの、1日の暮らしの流れを把握し、ご利用者本人の「できる力」、「わかる力」を、日々の暮らしの中で“発見していく事”に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、ご家族、関係者と共に、ご利用者のニーズを探りながら、主体的な生活や意欲を引き出し、ご利用者の「自分らしい暮らし方」についての意見交換による計画書が最も望ましいが、ご家族との種々の事情等が交錯し、実現が容易でないケースも多く、ご利用者と事業所職員による計画書作成が実情。計画書については、設定期間毎の形式的な計画書ではなく、体調の変化と共に、常に計画内容も柔軟に変化していくものであり、可能な限り、常にご本人や家族様の要望に耳を傾けながらの作成を心掛けたい。	介護計画は6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。計画作成担当者は、月例のカンファレンスで出される職員の意見も含めて、毎月のモニタリングを実施しています。しかし、職員によるモニタリングは実施できていない状況です。また計画作成担当者は、毎月のモニタリング結果をもとに、介護計画の見直しを行っています。しかし、家族とよく話し合い、家族の意向を十分に反映させた介護計画にはなっていない状況です。	職員が介護計画の支援を実行するに当たっては、その結果について職員がモニタリングを確実に実施し、記録に残すことが期待されます。また、介護計画の見直しに当たっては、サービス担当者会議に家族の参加を要請し、家族とよく話し合い、家族の意向を十分に反映させた介護計画にすることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録は、ご利用者の日々の様子、ケアの実践、気づき等をできるだけ、いきいきした表現で記入するよう心掛けている。情報は職員間で共有、介護計画の見直しに生かすよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ドッグセラピー、回転ずしなどの外食ツアー、墓参り他、介護保険サービス外のサービス提供について、ご本人、ご家族のニーズに柔軟に対応するよう支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内民生委員、地域包括支援センター、小学校、中学校、幼稚園、消防署、警察、病院等との関わり合いの中で安全・安心の確保がされていることをしっかり認識し、常に協力しながら、豊かな暮らしの支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な内科医、認知症専門医の往診、訪問看護ステーションとの連携による24時間連絡体制の確保、その他歯科・整形外科・眼科等の近隣医療機関との連携も充実させ、常に適切な医療を受けられ体制を構築し支援している。	前回の外部評価以降、医療機関と医療連携を新規に契約し、月2回の往診と、週1回の訪問看護師により健康チェック、認知症専門医の月1回の往診を受けています。診療科目によっては以前からの医療機関による医療を受け、必要に応じて職員が通院介助しています。また、協力医療機関と連携し、夜間や緊急時対応についての体制も整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の暮らしの中で、ご利用者の状態変化が生じた場合、訪問看護ステーションとの24時間連絡体制の中で、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院された際には、サマリーなどの情報提供や面会に行く等、病院ケースワーカー・担当看護師との連絡を密にして、早期に退院出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化並びに終末期支援のあり方に対する方針を、検討中であり、職員に対する研修、ご家族、かかりつけ医療関係者と十分な話し合いを持ち、方針の共有と支援の取り組みを図る事に努めたい	近い将来看取りを実施する方向で検討しており、今回新たに医療連携について契約をした医療機関や家族、職員などとの話し合いの準備に取り掛かろうとしています。今後、利用者が重度化していく場合、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医と連携を図り、状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、家族と話し合いをしながら対応していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションとの24時間連絡体制にあっても、急変時や事故発生時での応急初期対応の実践力は十分とは言えず、今後の課題の一つとして、定期的訓練と技術の習得に努めます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署との協力と指導の下に、防火・防災時の避難訓練を行い、ご利用者の安全確保の避難体制を築いている。	年2回、大阪市消防振興協会のサポートセンターによる協力と指導で、消防避難訓練を実施しています。非常・災害時の食料品と水の備蓄も実施されています。	
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のこれまで歩んでこられた、人生の生活歴を探りながら、その思い出と共に、最善の認知症ケアを目指し“家族”として暮らしている日常会話の中、ご利用者の尊厳や人権、プライバシーに十分配慮するよう職員への指導教育に努めている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、やさしい雰囲気です。利用者は、楽しい会話と笑顔で暮らしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、表情や感情の表出の反応を注意深くキャッチしながら、ご利用者の思いを「聞き出す」のではなく、「引き出す」様なアプローチを心掛け、「希望」や「好み」の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のサービス提供におけるルーチン・ワークや企画行事を遂行する流れの中にあっても、「暮らしの主人公」であるご利用者のその日の動きや、状態によって、予定を変えるなど柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者のヘアカットは職員（理容師免許取得者）によるサービスを提供し、服装についても、適宜アドバイスしながら毎日のおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は暮らしの中で、大きな楽しみの一つであり、食事を作る準備段階から関わってもらい、食後の食器洗い等、潜在する残存能力の活性化を図り、職員と共に食事や調理を楽しめるように心掛けている。	朝・夕食は、食材業者から取り寄せた食材をホームで調理し、昼食は法人の厨房から調理済みの食材を取り寄せています。利用者は食事準備、盛り付け、後片付けなどの得意な分野で役割をもって参加しています。職員は、利用者と同じものを食べながら、会話のある楽しい雰囲気づくりに努め、食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをしています。菜園で収穫した野菜が食卓にのることもあります。ホームで作るおやつを楽しみ、年2～3回の外食会も楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	一日の食事摂取、水分摂取量を記録、 バイタル含め、ご利用者、一人ひとり の健康状態を日々チェック。一日の必 要なカロリーや水分摂取に配慮しなが ら、ご本人、ご家族からの要望も可能 な限り受け入れ、習慣に応じた支援に 努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯洗浄も含め、歯磨き、 うがいなどの習慣づけを促しながら、 口腔内の清潔保持への支援に努めて います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	日々の排泄チェック表のデータから、 排泄パターンや傾向を分析、便意 を促すタイミングをみて、自尊心を傷つ けない様に「トイレでの排泄」へ誘導。 可能な限りおむつ無しのケアを目指 し、自立への支援に努めている。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとり の排泄パターンや習慣を把握し、声か けや誘導による支援を行っています。 現在大半の利用者が、自立に近い状 況を維持できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状態は、排泄チェック表により、 日々把握しており、水分摂取量や適度 な運動をしてもらう等、予防に努めてい る。可能な限り、下剤等の処方に依存 せず、自然排便を促すための工夫と支 援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者は平均週3回の入浴サービスを提供し、楽しんでいただいている。概ね、曜日、時間帯は、決めてはいるものの、決して事業所の都合を優先することなく、あくまでご利用者の状態や、意向を最優先に支援している。	利用者は平均して週3回入浴しており、希望すれば毎日の入浴も楽しむことができます。風呂を好まない利用者にも、声かけのタイミングを工夫しながら週1回は入浴してもらいます。菖蒲湯やゆず湯など、季節の行事風呂も楽しんでいきます。脱衣場だけでなく浴室の床にも床暖房が設置されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に消灯時間はきめておらず、気合うご利用者同士が、遅くまでリビングで、テレビの歌番組や会話を楽しんでおられる時もあり、ご利用者お一人おひとりの生活リズムを尊重しながら、日々の暮らしの中で休息や睡眠をとり、「ゆったり流れる時間」を楽しめる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ご利用者毎の服薬管理一覧表を活用し、飲み忘れや、誤薬の防止対策を講じている。かかりつけ医の往診時に、処方薬の変更や増量時には、副作用の影響と思われる状態の変化が予想される為、特に気を付けるようにしている。処方変更後に状態変化が見受けられた時は、訪問看護ステーションの看護師と密接に連絡をとり、ご利用者の良好な健康状態の支援に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の暮らしに、少しでも変化や楽しみ、張りのある日々を過ごしてもらう為、ご利用者一人ひとりの生活歴の分析と把握による情報により、楽しみごとや気分転換が反映される様に努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の楽しい思い出の場所や、行ってみたい場所へ、いつでも外出できるように、ご家族の協力も得ながら、可能な限り実現できるよう支援している。	職員は外出支援に力を注ぎ、日常の周辺の神社・お寺への散歩やスーパーでの買物、真向かいの老人福祉センターへの訪問の支援をしています。特に地元にある有名な桜の名所に出かけるのが利用者の楽しみになっています。季節毎の花見や初詣、外食ツアー、遠出のイベントにも出かけています。他県にあるお墓参りに出かけた時、自宅の掃除や荷物の整理に出かけるなど、利用者が行きたい所へ職員と一緒に外出するなど、個別外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額の現金所持は、管理上の問題もあり、本人所持は、現状認めていない。「手元にお金がないと不安」との気持ちも尊重し、要望されているご利用者には、少額は所持してもらっている。又、買い物希望されるご利用者には、職員が付き添って、いつでも買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族への電話などを希望されるご利用者には、可能な限り、架電の取次を行うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭が望める LDK は、ゆったりとした気分に入れ、居室毎に洗面、トイレを備えている他、居間・食堂・台所・廊下等の共用スペースには、26か所にオゾン発生装置を設置し、衛生的・精神的な癒し空間をつくり、安らいでもらえるよう支援している。	各ユニットにはそれぞれに素敵な格子戸の玄関入口があり、玄関外のテラスの菜園にはサツマイモが植えられ、季節の花が咲いています。また玄関を入ると季節の花、観葉植物、手作り作品が飾られています。明るく広く、ゆったりとしたリビング兼ダイニングルームには、ウッドデッキに椅子とテーブルが置かれた中庭や、掘りこたつのある和室、ところどころにソファやベンチ、椅子が置かれ、落ち着ける居場所がたくさん確保されています。壁には季節毎の切り絵や折り紙作品が貼られた壁画が飾られ、ゆったりと落ち着いた雰囲気的空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士がくつろがれるリビング、一人を好まれるご利用者には和室の一角で過ごしてもらったり、外が望める廊下の片隅でくつろがれる方には椅子などを置いて、“一人ひとりの憩い場所”を見つけながら空間設営の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家で、使用していた馴染み深い家具など、出来る限り、使い慣れたものを身の回りに置いてもらい、ご家族の協力の下に、従前との環境ギャップに配慮した支援に努めている	居室の入口には顔写真が貼ってあり、自身の居室がわかりやすいよう表示しています。居室には整理タンス、机、椅子、飾り棚、家族の贈った花、折り紙作品、装飾品、遺影、家族の写真、文庫本、テレビ、家族と連絡を取る携帯電話など、使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、個性的で落ち着いた雰囲気になっており、利用者が安心して過ごせる居場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態をしっかりと把握し、残存能力・自活能力の維持向上のため、きめ細かい個別設備や工夫に努め、不安や混乱を招く事の無いよう細やかな支援に努めている。		